ステパノだより

7・8月号　No.234

今月の聖句

『後にいる者が先になり、
先にいる者が後になる。』

マタイによる福音書　第20章16節

◎7月の予定

2日(火)～4日(木)　期末試験(中)
4日(木)　聖書教室
6日(土)　学校説明会①
8日(月)　地域との交流(中)
11日(木)　校内研修会
15日(月・祝)　神奈川全私学展(パシフィコ横浜)
18日(木)　給食最終日
22日(月)　一学期終業礼拝・教職員協議会
24日(水)　サマーキャンプ事前指導
25日(木)～27日(土)
　サマーキャンプ（小4～中3）

◎8月の予定

19日(月)～21日（水）
　日私小連夏季教職員研修会
21日(水)　漢字検定
21日(水)・22日(木)　日私小教頭研修会
21日(水)～23日(金)
　聖公会関係学校教職員研修会
29日(木)　教務委員会
30日(金)　全校登校日・教職員協議会
31日(土)　児童水泳記録会（横浜国際プール）

◎9月の予定

2日(月)　二学期始業礼拝
7日(土)　ステパノまつり
9日(月)　ステパノまつり代休

6月11日（火）音楽会が行われました。

◎今月の行事から

☆水泳教室・水泳訓練

今年も水泳の学習が始まりました。限られた日程ですが、充実して活動できるように計画しています。

6／27（木）・28（金）
　ポートハウス照ヶ崎（小）
7／9（火）・10（水）
　大磯ロングビーチ
7／12（金）ポートハウス照ヶ崎

☆ステパノサマーキャンプ（小4～中3）

7／25（木）～27（土）
　静岡県立富士山麓山の村

今年は一日目に五合目須走口から小富士へ向けてハイキングを予定しています。班活動をもとに、自主や協力、達成感を学んでほしいと思います。またお互いの新しい一面を知り、より関係が深まることを期待しています。

☆ステパノまつり　9／7（土）

6月から準備が始まっています。子どもたちはいろいろなアイディアを出し合い、大勢の方々がお楽しみいただけるよう頑張っています。

今年のテーマは「熱くなれ！　違いを見せるぜ！　ステパノまつり」です。足を運んでいただいて、夏の陽ざしよりも熱い子どもたちのエネルギーを感じてください。

宗教心って見えないけれど

学園長　小　川　正　夫

最近、悲しく辛い事件が報道されることが目立ち言葉を失いますが、私が学ぶことが多かった渡辺和子先生からお聞きした印象に残る話を思い出します。

社会的地位も優れ、経済的にも裕福で、両親も教育熱心な申し分のない家庭に育てられた一人息子が、高校生の頃から心が荒れて、家庭内で激しい暴力を振るうようになったようです。思い余った父親が「お前が生まれた時から今日までずっと、お父さんとお母さんは厳しい言葉をかけたことはないし、欲しいものは全て買い与えてきた。行きたいところがあればどこにでも連れて行ってあげた。家には必要なものは何でも揃っていると思うけれど、一体何が不足でお前はそのように荒れるのだ」と話しかけると、息子が、ぽつんと、「うちには宗教が無い」と言ったそうです。

渡辺先生は、「宗教がないというのは、キリスト教とか、仏教といった宗旨のことではなく、親に対して、『あなた達の生活は、お金中心、物中心、人中心ではないか、僕が欲しいのは物を超え、人を超えたものへの思いだ』と言いたかったのではないかと思う。外見的に整っていても、物質を他人との比較に置いて見栄や虚栄に重きを置いていては、そこに住む子ども達の心の渇きをいやすことはできない」と言っていました。

さらに、「物質的な家はあっても精神的、心理的に、温かさや安定感が実感できないとき、自分の存在を認めさせ、強く主張しようとする思いが余って、敢えて非社会的行動をとろうとするのではないか」と言っていました。

宗教があるということは、礼拝がある、聖書の時間があるということだけではなく、平和を創り出し感動することができる人に成長することかもしれません。

かなり前のことですが、小児病棟という本を読んだことがありました。

幼い男の子でかなり症状が重く、目も、口も動かすことが不自由で、記憶している表現では生きている肉のかたまりのようで、殆ど意思疎通ができず、一番奥の個室に寝かせ、口には出さなくとも、看護師は、できれば、その子の担当になりたくなかったようです。

ある日、いつものように身体をふいてあげ、顔を近づけ一言二言声をかけた時、「ぴゅっ」とおしっこを顔にかけられたそうです。その時、看護師は、初めて意思の疎通ができたと感動し、愛おしいと思ったという話です。

白血病で八歳の一人娘を亡くした母親が若い看護師さんに話したそうです。

消灯時刻になっても寝付かれない子の為に看護師が本を読んでいました。静かな寝息が聞こえるようになってからも、その看護師は三〇分以上ベッドサイドにいてくれたようです。しばらくして娘さんがそっと薄目を開けてみると、脇に看護師さんが見えて、安心して嬉しい気持ちで眠ることができた。「とても嬉しかったと看護師さんに伝えて」と死期が近い娘さんが言い残していたそうです。

一九九五年阪神淡路大震災があったとき、応援に駆け付けた警察官が体育館で検死や遺体の処置をしていた時、体育館の片隅に、煤だらけの女の子が茫然と立っている姿が目に入り、近寄ってみると、手にした黒焦げになった柄のついたお鍋に黒焦げの骨のようなものが二本入っていました。やっと開いた口から、お母さんと二人で寝ていると地震で家が崩れ、二人は壊れた家の下敷きになり、女の子は何とかはい出して、道行く人に「お母さんを助けて」と大声で必死に声をかけたけれど、誰も助けてくれない。

二人はやっと届くところで手を繋ぎ、声を掛け合っていたが、やがて遠くから火の手が上がり、勢いが増し危険が迫りました。お母さんは「もういいから行きな」と手をはなしました。女の子は離れたところから、下敷になったお母さんと家が炎に包まれて行くのを見ていたようです。

翌日はまったく記憶がなく三日目に焼け跡から、黒焦げになったお母さんの骨らしきものを拾い持っているといいました。そこまで言うと堪えていた悲しみが大きな泣き声になって体育館に響き渡ったそうです。警察官は言葉も無く涙ぐみ、女の子の肩の煤を掃ってあげていたそうです。

研修の取り組みについて

教諭　金阿彌　勉

今回から「研修」をテーマに数回にわたり何人かの教職員が取組みをご紹介することになりました。

学習指導要領もかわり、学園を取りまく環境も変化して行く中で、私たちがどのように考えて行動し、将来に向けて備えようとしているか、様々な角度からお伝えして行くという趣旨と考えています。

そのような訳で、私自身が「研修」というものをどのように捉えているかというところからお話しさせていただきます。

研修に取り組むモチベーションは内発的な動機、変えたい変わりたい、わかりたい、より良くしたい、創造的に行動することで何かの役に立てそうだというところから始まっています。

似たような心の動きとして、

・電車の景色が変わるのを眺めているのが好きだ。

・日々同じことの繰り返しだけでは我慢ができない。変化変容したい。

・同じ場所でも同じ景色は二度とない、移ろいゆく様をじっと眺めることは素敵なことだ。

などがあると考えています。

このような心のあり方は、炎に惹き込まれじっと見ていたくなる気持ちにも似ていて、炎が揺れる動きは、心のリラクセーションになる1／fのゆらぎ（※）であることから、1／fのゆらぎで心を変化させながら成長していきたいという心理に基づいていると気づかされました。

そのようなモチベーションで今現在、取り組んでいるテーマは以下の2つです。

①子どもの発達論研究

人格の形成と今を生きる力は、15歳の壁（＝反抗期を経て自立して行く時）を乗り越えていく時に出会った「理想」に基づいている。自分自身を想起し客観的に捉えることで、そのことが明確になり、どのようにして理想の形成がなされ、「今自分はどこに向かおうとしているのか」という自己理解が深まるということを研究しています。

②新学習指導要領の実践

私自身が、聖ステパノ学園に導かれたことそのものになります。

「子どもたちに実（じつ）を学ばせ、取捨選択して統合する力を養う」ために必要な授業とは何かを追究しています。

素材から作る取組みや日々の環境から良さや美しさを感じとる力を養うこと、自分と他者との関わりを、表現活動を通して段階的に学んでいくことなどが具体的な例です。

ここまでは、少し堅い話になってしまいましたが、「研修」はあらたまった研修会でなくとも、学ぼうとする側の心持ち一つで日常のふとしたことから気づきや学びがあると考えます。

ここ半年間では『ホームセンター研修（自称）』を行いました。図工・美術・技術という教科の性質上、授業の材料や部品など、近隣のホームセンターに出向く機会があります。

目的のものを売り場で探しながら、視界に入る様々な材料工具類をみて「これはあの授業で使えるかも知れないな」などと創造を連想させています。

昨年度はそこから導き出された結果として、中学三年生の卒業制作「ピザ窯づくり」の設計と材料調達に寄与することができました。

これからも、このような取り組みを軸にして、学園の環境整備と自分磨きをしていきます。

今後紹介される他の先生方の研修の取り組と、それを基にした実践もよろしくお願いいたします。

※1／fゆらぎ…パワーが周波数 f に反比例するゆらぎのこと。自然現象にも見ることができ、具体例として人の心拍の間隔、ろうそくの炎の揺れ方、電車の揺れ、小川のせせらぐ音、目の動き方、木漏れ日、蛍の光り方などがある。

生体のリズムは、基本的には1／fゆらぎをしていると分かり、この1／fゆらぎは快適性と関係があることが判明している。

特集　授業研究　プロジェクターを有効に使う

授業を意欲的に

中学校教頭　高橋　謙二

ここ数年、子どもたちがどうしたら授業に興味をもって参加できるか、理解できるのかを考えると必然的にＩＣＴ（情報通信技術）を利用した授業を積極的に試みた方がよいと感じています。

私たちの学園では、スタートしたばかりで現在は電子黒板やｉＰａｄなどは活用していませんが、一斉授業の中で様々な取り組み、配慮が要求される今日では更に大切な手段の一つになってきています。

２年前の小学校教諭時代も算数や社会などでは、大いに活用をさせていただきました。現在は中学校の３学年の社会を教えていますが、ピンポイントで子どもたちにわかりやすく、必要な映像を具体的に示すことができることで、本当に欠かせないものとなっています。地理の授業では、グーグルアースを使い聖ステパノ学園の上空から地球全体をスクリーンに映し、クラス全員で位置情報など確認することを行いました。子どもの中には、『おおーすごい』という声があがりました。地図帳や地球儀などでは体験できないような感動を皆で共有しています。また、歴史の授業などでは、ＮＨＫの動画や YouTube などを活用して、それぞれの時代の様子を具体的に映像を通して、知らせることをしています。

ただ、ＩＣＴ教材を使うことが、いつでも子どもたちが、意欲をもち積極的に授業に参加し、授業内容を理解できるわけではないようにも感じています。新しいことを取り入れるのは大切なことですが、やはり基本は、その場その場にあった、アナログ的な見方、やり方を忘れずに、両方を併用して行う柔軟な取り組みが理想です。そして、アナログ的に行うにしてもＩＣＴを活用した授業を行うにしても大切なのは、早くクラスの雰囲気や状態を察知しそのクラスに合った教材研究を行い、その場その場で授業のアプローチの仕方を考え、見極め変えられる準備と気持ちが大切だということをここ数年を通して感じています。

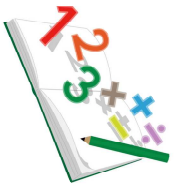
プロジェクター等映像機器を利用した授業の工夫

教諭　難波　寛

数学でも生徒に理解の助けとなるように、プロジェクターを使用することがあります。どのように使ったのかというと、生徒に配布したプリントを黒板にプロジェクターで写し、授業を行いました。なぜこのようにしたのかというと、生徒と全く同じグラフ用紙を使って説明を行いたかったからです。プロジェクターを使わなくとも、黒板に貼って使う教員用のグラフ用紙も用意はあるのですが、それは生徒が持っているグラフとは全く同じものではありません。グラフによってマスの数、メモリの数がかいてあるもの、ないものなど違いがあります。一見小さな違いでも初めて学ぶ生徒にとっては、理解し難い大きな違いに感じられてしまうようでした。

授業で生徒の理解を引き出すのにこのような細かな配慮が必要になることがあります。だからといって、黒板に貼れる生徒と全く同じグラフ用紙を一から教員が用意するのもとても大変です。まず拡大しコピーする、それを模造紙にはる、磁石を用意するなどなどの準備が必要となります。この準備の手間を解決するのに、プロジェクターはとても良い機器でした。実際使ってみると教員の準備の手間も少なく使いやすいものでした。

今後さらにプロジェクターなどの機器を使用し生徒にとって理解しやすい授業をしていきたいと思います。



同じものを見てちがうものを生み出す

教諭　草山　広子

私は今、小学校二年生を受け持っています。この一学期は特に『聴く』をテーマにしています。よく見て、よく聞いて、心を動かすです。

先日、生活科の時間に「校内にある紫陽花を観察しよう。」という授業がありました。子ども達は、思い思いの場所に行って、花の色、葉っぱのつき方などを、よく見て周りました。

実は五月に国語の授業で、花の詩を中心に音読を楽しみました。たんぽぽを野原の椅子に見立てた詩、パンジーをライオンの子に見立てた詩などを集め、PowerPoint でキーワードになる言葉を穴あきにしたものを作り、どんな言葉が入るかみんなで考え、いろいろな答えがあることを聞き合いました。早速グラウンドからの帰り道、「パンジーを見つけたよ。」という元気な声が聞こえてきました。

さて、先ほどの花の詩の次のページに、校内の紫陽花の写真を入れて、詩が書けるようなワークシートを作り、プロジェクターで映しました。「あっ、あそこの紫陽花だね。」と口々に声が上がりました。一年生の時から大切にしている『自分だけの発見』を確認した後、紫陽花の詩を作りました。

プロジェクターで同じ紫陽花を見て、それぞれの心の中を表現しました。

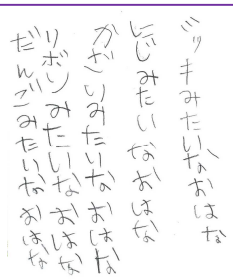
たんぽぽさん

のはらが　つけた
きいろい　ボタン
たんぽぽさん
たんぽぽさん
□が　やすむ
かわいい　おいす
たんぽぽさん
たんぽぽさん

パンジー

かぜに　ゆれてる
きいろい　パンジー
まほうで　はなに
かえられた
□こが
かくれてる

あじさい



「光」

教諭　澤邊　嵩介

プロジェクターを使った授業の、一番の特徴はなんでしょうか？映像が観られること、カメラで撮影した写真を直ぐに映せること。

様々に考えられますが、私は「光」を使うという点が最大の特徴だと考えています。私が授業でプロジェクターを用いる時、二つの「光」を意識しています。

一つ目の「光」はもちろん、プロジェクターが投影する光です。

皆さんも、うっかりプロジェクターの光を遮ってしまい影を作ってしまった体験があるのではないでしょうか？それを思い出し、3年理科で扱う「太陽とかげの動き」ではプロジェクターの光を太陽光に見立ててみました。影のできる方向を確認したり、グラウンドの写真に鉛筆で影を映してみたり、…太陽の光をプロジェクターの「光」で見立てるのは子ども達も楽しんでいました。

二つ目の「光」は、教室の光です。プロジェクターを使う授業場面では、教室の明かりを全部消したり、ノートを取るために一部の明かりを消したりと、普段より明かりを少なくすることができます。子どもの中には、体調によって「光」という視覚刺激に敏感になり、落ち着かなくなってしまう子どももいます。そういった子ども達のために、気持ちを休めることができる、丁度いい暗さの「光」になるよう、あえてプロジェクターを用いて授業するということもしています。

様々な「光」の活用方法、まだまだ研究の余地がありそうです。

【小学校】森のおとまりのはじまり

教諭　赤田裕章

二〇一一年三月十一日。東日本大震災が起きました。聖ステパノ学園でも大きく揺れ、児童・生徒は海の見えるホールへ避難しました。幸いなことに、大磯ではライフラインが寸断されることはなかったのですが、公共交通機関が不通になってしまい、帰宅できない子どもたちは、学校に泊まることになりました。彼らの中には初めてのことに不安を感じる子が多くいました。この体験から、学校に泊まった経験があれば、いざという時も落ち着いて行動ができるのではないかと考え、小学校一年生～三年生を対象に、

○夜の学校を体験する
○自分でできることをふやす
○異学年との交流

この三つの目標を考え、森のおとまりが企画されました。

当初は、朝から普段通りの生活をした後にお泊まりでした。しかし今は、子どもたちの様子や体力を見ながら、十三時開始に定着しています。現在では、小学校三年生がリーダーシップをとり、下学年を引っ張ってくれています。学校に泊まることができる嬉しい行事のため、なかなか寝付けない子も多いですが、暮れなずむ海を眺めたり、仲の良いお友だちと教室で寝たりと、夜の学校を楽しむ良い機会になっています。

2019年6月21日～22日の「森のおとまり」に初めて参加した一年生に感想を聞きました。

たのしかったこと

夕食のカレー　5人
カエデの実のプロペラ　3人
ランチョンマット作り　2人
紙ひこうき　7人

おとまりして、やってみたいこと

風船あそび　6人
プール　7人
2年生になったら、米を洗いたい　4人
カレーを作ってみたい　6人
シャワー　7人、おふろ　5人

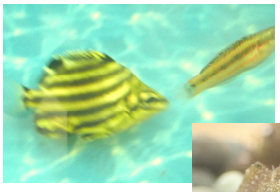
いちばん楽しかったのは、5じ半くらいに、目がさめちゃってトイレにいったらアオバトのなきごえがきこえたこと。とってもカレーが楽しみだった。おにぎりは、たらことのりたま×2です。来年はしかいかもしれないのでがんばります。（小二　SZ）

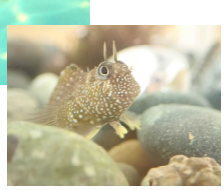
いちばん楽しかったのは、今日の紙ひこうきです。ねるとき、ちょっとがんばりました。すごく感動して、ないちゃいそうでした。（小三　HR）

【ステパノかるた】その3

つらい時
支えてくれる
友だちだ

さかな好き
この学校は
水族館





【中学校】9月のステパノまつりに向けて準備を進めている「ステパノまつり実行委員会」の一人に原稿を寄せてもらいました。

9月初めに行われるステパノまつりに向けて、2学期になると本格的な準備が始まり、皆大忙しです。その始まりはバザーでしたが、徐々に子どもたちで作りあげるステパノまつりになってきました。昨年度はのべ一千人近くの方が来場してくださいました。

今年のテーマは、「熱くなれ！違いを見せるぜ！ステパノまつり」です。「自分たちでつくる」を強く打ち出したかったので、今までとの違いを見せようと、このテーマに決めました。

今年の企画は、小学校の模擬店や映画館、中学校はアトラクション・ゲーム、ミニシアター、飲食店など盛りだくさんです。昨年度の中学3年生の卒業制作、ピザ窯も活躍するかもしれません。

自分は、1年の時からずっと実行委員をしています。食べ物の店もやりたかったけど、同じ部の先輩が実行委員会にいたので、やってみることにしました。すると、思ったよりやることが多く、楽しくてやりがいがありました。小学校のときの担任の先生が、実行委員会の担当をしてくれているのも、三年間続けようと思えた理由の一つです。自分は今年で最後なので、誰よりも楽しみたいと思います。たくさんの方に来てほしいです。（ＩＹ）

英語科では、希望する生徒が教科担任との「英語で交換日記！」に取り組んでいます。今回はその一部をご紹介しましょう。

(6/5)　I played basketball.　It was fun!!　But I was tired.
And I went to a cram school.　I studied English and talked with my friend and my English teacher.　I was happy.　S.N

You had a good time there.　What did you talk about with them?　Mr. Yonehara

(6/3) Today, we had a discussion about the festival in September.　We could not put ideas together.　G.S

Your team's project, SHOGI and LEGO CLUB, looks difficult to put ideas together. But if you can do that, it would be one of the best projects because the guests of all ages may enjoy it!　Mr.Yonehara

連載【ステパノ散歩】ー私の好きな場所ー

新図書室

新しくできた体育館棟、職員室の上の階にある新図書室。その図書室に入ってみると、色々な本たちが肩を並べ合い、窓には岩崎山の景色、そして太陽の明るい光が差し込んできます。僕は、毎回図書室に来て、この景色を見るのが好きです。

新図書室は、本がすごく探しやすくなりました。正面は小説、右側は海外の小説、左側は百科事典。小学生向けの本や、ちょっと大人向けのものなど、色々な本があり、行くたびに新しい本に出合えるのがとても楽しみです。僕は、ヒットした映画の原作の小説を、よく読みます。今回は、「ハリーポッターと秘密の部屋」を借りました。

しかし、中学校舎との距離が遠いので、毎回走って新図書室に行くことになります。少し疲れますが、本に囲まれればそんなことは忘れます。僕は今日も新図書室に行き、また新しい本と出合えることを楽しみにしています。

（中三　ＫＪ）

次回もお楽しみに。

「春のはなそう会」　ミートローフ委員会

５月８日、小川学園長先生・小一担任高桑先生・中一担任二梃木先生をお招きし「春のはなそう会」を開催しました。

今回のミートローフの会は、新しくステパノに入られたＳＡの歓迎と、先生方と親しく懇談させていただく機会を設けるという趣旨に沿い、小川学園長先生とはご一緒にランチを、また話し合いは小グループでしていただくことになりました。

普段はできないお話が出来るのでは・・・という期待に先生方が応えてくださり、「えーっ」「そうなんですか！」という声が会議室中に飛び交い、自分のグループの声が聞き取れないほどの時もありました。その一部をご紹介します。高桑先生は子どもの頃、まるでちびまるこちゃんのように“ぽや～ん”としたお子さんだったそうです。白いご飯とタラコがあれば満足で、小学校の給食を食べられるようになって学校生活も楽しくなって行かれたそうです。「僕を探すときはグランドに来てください！」と自己紹介された二梃木先生は、「大縄跳びが心配なんですが」という質問に答えられ、「大丈夫です。実はちょっとずつ、ちょっとずつ跳べるような工夫をしています」と大縄跳び指導の秘訣を話してくださいました。一方、小川学園長先生はご自分の子育てについてお話くださり、「実はね、もうちょっと面と向って話し合えば良かったかなぁって思ってるんですよ」という私たちと同じ目線に立って述べて下さったお言葉に、はっとすると同時に心温かくなる一瞬がありました。

さて、今回の春のはなそう会は前回よりも長く時間を設けましたので、ＳＡ同士のおしゃべりタイムが少しありました。アンケートからは、「上級生のお母様方が話しやすい雰囲気を作ってくださり、とてもありがたかったです」「貴重な話が出来、情報交換も出来て良かったです」「小学一年生のお母様方のお話を聞いて当時の想いや学園に対する感謝が再びこみあげました」「入学して分からない事が多かったのですが、先生方や保護者のお話を聞けて良い時間を過ごすことができました」という感想をいただいています。

会終了後、ミートローフ委員で反省会をしましたが、考慮すべき点が色々わかりました。お忙しい中ご出席くださる先生方・ＳＡの皆様に、より良い時間を過ごしていただくため改善を続けて参りたいと思います。

先生方並びにＳＡの皆様、感謝申し上げます。ありがとうございました。

STEPHEN'S NEWS

○実用数学技能検定　十一級　合格
小一　ＭＲ

○令和元年度少年・少女
陸上競技交流記録会

・四年男子　100ｍ　ＴＭ・ＨＵ
・五年男子　800ｍ　ＫＳ
・五年女子　100ｍ　ＡＭ
ＴＭ・ＨＭ
・六年男子　100ｍ　ＯＳ
・六年女子　800ｍ　ＦＨ

【編集後記】

梅雨とは言いながら、初夏らしい爽やかな風が岩崎山を吹き抜ける日もあり、子どもたちは毎日元気に学校生活を送っています。

「教職員の研修」・「授業研究」をテーマに据えてスタートした今年度のステパノだより、７・８月号をお届けします。研鑽、知識のアップデート、その共有、を旗印に、歩みを進めたく思います。（た）

代表者　学園長　小川　正夫
発行者　聖ステパノ学園小学校・中学校
ステパノだより編集委員会
〒255－0003
神奈川県中郡大磯町大磯８６８
ＴＥＬ　０４６３－６１－１２９８
ＦＡＸ　０４６３－６１－９７３９
http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇一九年七月四日（木）発行　第234号